

POLE POSITION

ポールポジション

4CH
FORMULA
SOUND

●製作/アレサンドロ・フラカッシ ●監督・編集/マリオ・モッタ
●撮影/エンニオ・グアルニエリ/ヤシ・デ・ポント/ダニロ・デジテリ
●原案/ピエトロ・リッツォ/オスカー・オレフィチ ●音楽/グイド・マウリツィオ・デ・アンジェリ
●製作会社/レーシング・ピクチャーズ s.r.l.



●ニキ・ラウダ/ジェームス・ハント/マリオ・アンドレッティ/ジョディ・シェクターほか一流レーサー総出演
●インタビュー/シドニー・ローム
●QUEST/Gene Hackman / James Coburn / David Niven / Michael York / Jean-Louis Trintignant / Muhammad Ali
●カラー作品/イタリア映画 ●提供/東映株式会社

夢、野望——スピードに魅せられた男たちが、命を賭けて激突する世紀の祭典 F1グランプリ



＜オリジナル・サントラ盤＞バーボン・レコード

A) レット・ミー・ラブ・ユー ● B) ポール・ポジション

音楽/惣領泰則 ● 歌/ティナ ● 詞/ビル・クラッチフィールド ● 演奏/ブラウン・ライズ



いつの日も男たちは命を賭ける…栄光と愛のために。

77年全レースから78年第1戦まで
時速300Kmで激突するF1グランプリ!

OUTLINE

《F1グランプリ》このF1とはフォーミュラー・ワン（規格された車：F1・F2・F3がある）という意味。つまり、レーシング・ドライバーによる唯一の世界選手権である。年間16〜17戦を世界各地で転戦し、ポイントを競い世界一が決定されるのだ。

日本でも76年と77年に最終の第17戦が行なわれ、ファンを喜ばせた。

この映画は、77年のF1グランプリを中心に、78年のアルゼンチンGPまでを描きながら、F1グランプリの本物と真実を追求した異色のドキュメンタリーである。

美しい人気女優、シドニー・ロームが我々をF1の世界に案内してくれる。

ニキ・ラウダ、ジェームス・ハント、マリオ・アンドレッティ、カルロス・ロイテマン、ロニー・ピーターソン等スーパー・スターの華麗なドライビング・テクニックを始め、彼等の恋人や妻たちとのプライベートな姿、そして芸術品とも言えるべきF1マシンのメカニクなど、まさにF1映画の決定版である。特にニキ・ラウダがこの映画に全面協力をし、76年の西ドイツGPでの大事故（ニキは顔の半分をやけどし、生死が危ぶまれ、奇跡的にカムバックした）をフィルムを見せながら語るシーンは、凄い！というより他はない。その他、77年南アフリカGPでの、トム・プライスの死など、彼が目撃した一流レーサーの過去のクラッシュ・シーンほか、貴重なフィルムが収められている。

ゲスト・スターとして、レース場に来ている映画スター達にシドニー・ロームがインタビューするシーンは見ても楽しい。みず

からカーキチと認めるジェームス・コバーン、マイケル・ヨーク、デビッド・ニーブン、また自分自身ストックカー・レースに出場しているジーン・ハックマン、そしてモハメド・アリ、ジャン・ルイ・トランティニヤンが姿をみせる。

プロデューサーは、F1マシーンを持っている26才のアレッサンドロ・フラカッシ。監督・編集に、一連のヤコベッティのドキュメンタリーと、"グレート・ハンティング"で編集を担当したマリオ・モッラがあたり、迫力ある映像は、"甘い生活" "情事" "流されて"のエンニオ・グアルニエーリ他、20名からなる撮影チームが担当。音楽は"ゾロ"のガイド&マウリツィオ・デ・アンジェリ兄弟。ロ

ック・ビートに乗せてハイテンポな素晴らしい曲が、マシンの映像とマッチして効果をあげている。



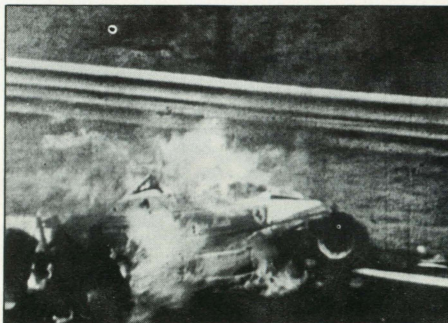
F1グランプリこそ 世界最高のイベントだ!

この世界では、F1グランプリ・レースをF1サーカスとも呼ぶ。それは世界各地、大きなトレーラーにマシンを収め、転戦するからだ。世界各地のレース場に、何十億という金が動く、まさにビッグ・サーカスと言える。

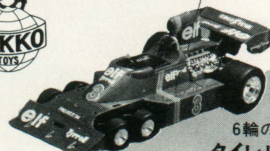


続発する死のクラッシュ

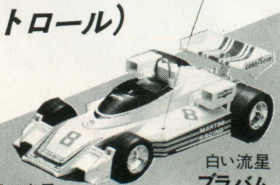
時速300〜350km。翼を付けたら空を飛ぶ程の速さで突っ走るマシーン——。マシーンとマシーンがちよっと触れただけで壁に激突す



セミデラコン(ラジオコントロール)



6輪の青い疾風
タイレルフォード



白い流星
ブラバム

セミデラコンは総て3ヶ月の保証付

ニッコー



る。凄い迫力だ。映画は過去のレースから、77年ロングビーチでの西アメリカGPで、ハントの車がワトソンの車とぶつかり空中に吹っ飛んだ瞬間。そして南アGPに於いてトム・プライスが死亡した事故まで刻明に見せる。



ラウダは甦った

モーター・レーシング・ファンなら誰でも知っているニキ・ラウダの大事故。それは76年8月、西独ニュルブルクリンクでのこと。それまで総合でトップを走っていたラウダのマシンが、クラッシュで突然に燃え上った。マシンに駆け寄り人々の波、やっと助け出されたラウダは、顔がすでに焼けただけ、動かない。誰もがもう助からない、と信じた。それをカメラが非情にも捉える。だがラウダは、不死鳥の様に甦った——。



世界最高のメカたち

レーサーの影に隠れて裏方の存在であるメカニック・マンの姿。そしてF1マシンの組立てからその内部構造までカメラに写し出され、改めてそのメカニズムには驚く。マクラーレン、タイレル、ブラバム、ロータスなど、マシンと言うよりも怪物といった表現が当てはまる。高性能で、世界最高と言われるフェラーリなどは、レーシング・ファンには最高の楽しみだ。



華麗なる女性たち

各スポンサー製のTシャツに身を固め、デモンストレーションするモデルたち、そして興奮を求めて集まる女性ファン。不安と期待でレースを見守る妻・恋人など取り巻きの美女たち。主役はレーサーばかりでないのだ。

お得な
特別鑑賞券1000円(一般1300円 大・高生1100円)の処 絶賛発売中

9月ロードショー

新宿歌舞伎町
ミラノ座

(202)
1189

渋谷東急文化会館1階
渋谷パンテオン

(407)
7219

■時間/連日 11:30 1:15 3:20 5:25 7:30